

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1290500014
法人名	株式会社マウントバード
事業所名	グループホーム みどりの家
所在地	〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105 (電話) 043 - 292-4907

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年10月9日

【情報提供票より】(20年8月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	専任4名 兼務1名 非常勤14名 常勤換算8.4名	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費45,000円,水道光熱費20,000円,理美容代1,500円,おむつ代実費。他、マッサージや外出対応費。		
保証金の有無(入居一時金含む)	300,000円	有りの場合償却の有無	有(期間:3年)一時入居金として3年償却。途中退所の場合は残額を返却。		
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円	
	夕食	600 円	おやつ	200 円	
	または1日当たり 1,500円				

(4) 利用者の概要(8月16日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉南病院 武村内科医院 ベイデンタルクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>緑豊かな畑や林など、広い敷地を持つホームである。入居者は園芸や畑仕事を楽しむことができる。ホーム建物は木造で、ぬくもりを感じさせる作りである。各居室には広い収納スペースがあり、大抵のものはここに収納できるので、足元が散らかることなく、安全である。ホーム職員の地域協力担当は、町内のゴミ・缶集めに参加している。管理者はホームの畑で採れた野菜のおすそ分けを行って、地域住民として溶け込む努力を重ねている。職員と入居者は、お互いできることを通して支えあう関係を築いている。ホーム内には外出時の写真が沢山飾られており、いきいきとした入居者の姿が写しだされていた。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、常勤職員の入替わりがあったため、前回評価における改善課題にはあまり手をつけていない状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職場全体で自己評価に取り組む事が、ホームの改善点を明確にし、自分たちのサービスの向上に繋がる事を理解し丁寧に取り組んでいる、ただ今回は、担当者や職員の交代がありホーム全員での取り組みには至らなかった</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議参加者は、ホーム運営者、管理者、民生委員、消防署員、ご家族代表ら。参加メンバーには、地域住民や認知症介護の有識者等、より幅広い人材を含めることが求められる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>管理者・職員の入替わりがあったとのことなので、さまざまな機会を作って家族との連携をより密にし、意見要望の吸い上げに尽力する必要があると思われる。信頼関係の再構築が求められる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外出時、入居者と職員は首にホーム名を記したカードを提げて出るので、周辺の農家や商店には覚えてもらっている。訪問当日は、警察の立ち寄りが見られた。消防署の指導を得て、居室入り口に避難方法を表示している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念に「責任のある地域市民」を掲げている。グループホームとしては、これを実現するため、職員が地域協力部を作り、街のゴミ拾いなどを行っている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	笑顔・真心・信頼をグループホームのモットーにして日々取り組んでいるが、職員の生き生きした笑顔が少ないように見受けられた。		今一度、職員全員が笑顔・真心・信頼について考え直し、日々の業務に活かせるよう話し合うことが期待される。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員で地域協力部を作り、敬老会や納涼祭、地元の行事に参加するなど交流を深めている。町内会への加入も検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員の交代があったため、昨年度の評価を受けての取り組み等があまり見受けられない。		過去の外部評価結果を見直して、改善点の洗い出しを行い、身近なことから一つずつ取り組んでいくことが求められる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年9月に第一回を開催し、以後2ヶ月に一回計画されている。しかしながら構成メンバーに地域住民などが含まれていない。今後は、町内会等呼びかけ、さまざまな地域の方々に参加してもらうことを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症講座や運営推進会議、ホームの行事などに市町村担当者の出席は確認できなかった。何かあった時は主として電話で市町村担当者に相談している。		ホームの悩みなどを市町村担当者に相談し、共にサービスの質の向上に向けた取組みを行うことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の介護計画や意向、暮らしぶりや金銭管理について、家族との情報交換が不足しているように見受けられる。		あまりホームを訪れない家族には、写真や暮らしぶり、金銭管理などの報告を積極的に送ることにより、より密接な繋がりができると思われる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、職員はお茶を提供し、できるだけ話を聞くようにしている。家族会や運営推進会議、意見箱の設置など、意見、不満、苦情の表出ができるよう工夫している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの一階ユニットと二階ユニット間で職員の入れ替えがあった。しかし顔なじみの間柄なので、特に混乱は起きていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のケアの中で先輩職員は後輩の指導をし、管理者は職員の技量を把握して、研修などの情報があれば公開し、参加を促している。しかしながら計画に基づいた研修というわけではない。		中堅職員の計画的な研修や同一法人内の4つのグループホームで相互に交換研修も予定されているので、今後に期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム千葉連絡会に交代で参加し、情報交換できる仲間作りをしている。職員は近くの同業者と交換研修をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員は入居申込みの際に、家庭や病院を訪問し、事前の聞き取りを行う。また入居者本人や家族に日帰り体験をしてもらい、職員と顔なじみになった上で入居できるよう、さまざまに気を配っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者から調理の味付けなどを教わるなど、入居者の得意な事、好きな事で、出来ることを共に行い、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の支援の中で入居者の希望、意向を把握し、気がついたことは、申し送りノートで情報を共有するよう努めている。把握が困難な入居者には、できる限り多くの職員がかかわり、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、介護支援専門員と職員で話し合い作成している。それを一部の家族には説明し、同意を得ているが、全ての家族にきちんと説明し、同意を得るには至っていない。</p>		<p>介護計画書を作成するにあたっては、入居者に関わる多数の人々で話し合いをし、具体的な計画書の作成が望まれる。また、作成された介護計画書を全ての家族に説明し、同意を得ることも必要と思われる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月毎に見直しがされている。しかし、入居者の状態が頻繁に変化するため、見直しが追いついていないのが現状である。</p>		<p>入居者の変化の状況を掴み、現状に即した速やかな見直しが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
そった					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員体制に影響することでもあり、ホームで出来ること、出来ないことを家族に説明し了解を得て、現時点ではこれといって多機能的な支援は行っていない。今後、交代で個別の支援を検討中である。		今後、家族にも協力を仰ぎ、事業者として出来る範囲での支援を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定疾病で入所当初から継続して、かかりつけ医の診療を受けている入居者もいる。それ以外は家族の要望もあり、提携医療機関での受診支援が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、定期的な訪問診療が行われている。重度化や終末期ケアについても、医師、入居者、家族、職員の話し合いもたれ、受け入れ体制は出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりの状態を理解していて、個々に合った声かけをし支援している。介護計画書等の個人記録は事務所に置かれ、その他の重要書類は鍵のかかる書庫で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は出来る限り、入居者の希望に沿った支援に努めているが、職員側のペースになっている場合もあり、今後の課題の一つとして考えている。		入居者を主体にし、一人ひとりのペースを尊重した支援が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はそれぞれ、自分の力の発揮場所として、野菜の下準備や、下膳、食器洗い等、出来ることを行っている。また、食事中は演歌のバックミュージックを小さくかけ、入居者と職員は会話をしながら、揃って食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日を除く週3回午前中で行われているが、今後入居者の希望に合わせて午後にも入浴が出来るよう検討中である。また、1階の浴室には座位の状態が入浴が出来る機械浴の設備もあり、介護度の高い入居者の入浴も行われている。		入居者の意向に沿った入浴支援ができるよう再度入居者の生活習慣や希望を考慮に入れて職員で相談し、実現することが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りが上手な入居者が畑でなす、きゅうり、かぼちゃを育て、日々の献立に上がっている。また、習字が得意な入居者の作品が廊下に貼られている。他にも台車でゴミ捨てを頼んだり、出来る限り個々の力が発揮できる支援を行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物は十分出来ていない現状であるが、最低月に1回は各ユニットに分かれ、外食やお花見等、車での外出の支援を行っている。		入居者の意向を汲んで、体力に配慮しながらの日常的な外出支援を行うことが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が施錠がされており、解除するには暗証番号の入力が必要である。ホームとしては入居者の安全を最優先に考え、家族の了解も得て行っている。玄関以外の出入口は施錠されていないので、自由に庭等にすることはできる。		入居者が、施錠されることにより、行動制限されている、閉じ込められているという思いを抱くことの無いよう、配慮を続けていくことが求められる。非常災害時の開錠についても取決めをしておくことが必要と思われる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の救援に役立つよう、入居者個別の歩行能力が示されたプレートが居室の入口に貼られている。また、消防署の協力を得、職員のみで夜間想定訓練を実施した。しかし、災害マニュアルや地域との連携が整っていない。		今後運営推進会議を通じ、地域との連携体制について話し合う意向であり、また、災害に備えて飲料水、食料の準備も考えているとのことなので、実現を期待したい。マニュアルや役割分担表などの整備も促される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、刻み食やミキサー食を提供している。食材は専門業者からの取り寄せで、栄養摂取量は明記されている。水分量は職員が把握し十分注意をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	恵まれた広い敷地の中に全てがゆったりした造りである。室内は木の香りが漂いぬくもりが感じられる。廊下やリビングの隅、脱衣所にはベンチが置かれていたり、みんなが集まるリビングには季節を感じる折り紙や、水槽の中をイメージした作品が飾られている。適度な光が差し込み、不快な音や臭いは感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ好みの暖簾がかけられ、各自の部屋が分かるようになっている。入居者は各々思い出の家具や飾り物で安心して過ごせるように工夫している。		